支部を訪ねて

栃木県支部
1994.4.12.(火)

今回より「わがまち・わが支部」を「支部を訪ねて」と改め，支部のインタビューを掲載することになった。その第一回目として，栃木県支部を取り上げる。当支部は1980年，宇都宮を拠点に設立されたが，現在ではコンペティションの参加者が毎年300人を越え，本選や全国大会に多数の出場者を送り出す地区となっている。

さて，正午過ぎ宇都宮駅に降り立つと，駅前の大通りを春の嵐が吹き抜け，整った町並みがいくぶん黄色くかすんで見える。さすがに栃木の中心地だけあって，ファッションの店がひしめくアーケード街は，新学期を迎えた学生達で大いに賑わっていた。今回インタビューをお願いした田渕進・厚地和之両先生は，宇都宮の繁華街からバスに揺られること30分，静かな丘の上の宇都宮短期大学で教えていらっしゃる。ちょうど授業が終わった時刻，女子学生の熱気に包まれたロビーでカメラ片手にうろうろしていた筆者を，両先生はあたたかく出迎えて下さった。　（インタビュー内敬称略）

出会いのきっかけは蛍雪時代

問：栃木県支部は14年の歴史を持つ支部ですが，その成り立ちにはどのようなエピソードがあったのでしょうか？

田渕：20年ほど前になりますが，福田靖子先生が旺文社の蛍雪時代高校コースをご覧になって私を訪ねてきたのが最初のきっかけでした。その後，巣鴨の事務所へ通ったり，地元の同士が集まってバスティン研究会を開くなどしているうちに，支部としての母体が出来上がりました。

問：支部を開設した当時の反響はいかがでしたか？

田渕：その当時の先生方は，幼児教育に関して，まだＰＴＮＡで考えているほど進んだ段階では指導していなかったので，いざコンペに生徒を出すにあたっても，その級に該当する生徒がいなくて苦労したことを覚えています。

問：現在ではコンペ出場者がもっとも多い地区のひとつとなっておりますが？

厚地：私は三回目からお手伝いしておりますが，どうして栃木がこんなに盛んになったのか，かえって不思議なくらいです。一口に言えば，田渕先生の優れたアイデアと指導力のもとで，みんながきちんと分担してやってきたからだと思います。

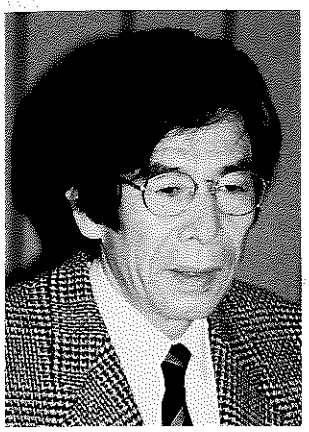
問：「ヤングピアニストの会」のコンサートは今年で第10回目となりましたが，毎年本部へプログラムをお送りいただいておりますし，会計報告書の連絡も大変詳細にしていただいているという印象が強いのですが，それだけ支部としての管理がゆきとどいているということでしょうか？

厚地：たとえ不平不満があったにせよ，そうしたことはすべて公平ですから，みんなにきちんと示せるようなスタイルをとっていれば波風は立ちません。総会も，まんべんなく召集をかけていますし，細かい資料を提示してみなさんの了承を得ることで組織の充実にかなりの効果を上げていると思います。

コンペ関係者に一輪の花

問：それでは実際に，栃木県支部としては，どんなコンペティションを行っているのでしょうか？

厚地：まず，予選で優秀な成績を修めた方には，宇都宮



田渕 進先生
全日本ピアノ指導者協会理事
宇都宮短期大学教授

栃木県連合を結成して栃木にまんべんなくPTNAの輪を広げたい

短期大学の学長から最優秀賞，田渕先生から支部長賞が贈られます。さらに本選になると，各楽器店からの賞が加わり，出場者全員に花をお配りして，記念撮影が行われます。

田渕：コンペティションが，勝者・敗者という観点に偏ってただ競い合うものになってしまうのでなく，音楽を楽しむ者同士がみんなで喜び合える場であってほしいと思っています。そのためにも，表彰される人を大事にするのはもちろん，それ以上にあたたかい気持ちで，出場した生徒と先生方に一輪ずつ花を贈って労をねぎらう，そういう考え方でこれからも運営していきたいものです。

問：「ヤングピアニストの会」も同じお気持ちでなさっているのですね。

田渕：出場者は各先生から数名ずつ推薦していただいて参加します。そうすることで，一生懸命頑張ったけれどもあと一歩届かなかった方や，指導者として是非とも出したいと思っていた生徒が参加できるのです。

問：今年のコンペティションに向けては，どのような準備をなさっていますか。

厚地：今のところ特に真新しいことはありませんが，最低限これまでより良く。あとは田渕先生のアイデアを実行するのみです。尻上がりに良くならなくちゃいけない，というのが田渕先生の信念ですから。——ぼくらにまかせておいたら，現状維持がやっとといった感じではないでしょうか(笑)。要はそうしたことを公平に明快に，みなの会員に解るようにやるということです。

栃木県連合結成に向けて

問：栃木県にはほかに栃木支部と小山支部がありますが支部間のつながりについてはどのようにお考えですか？

田渕：栃木支部はもともと私が一緒になって作った支部で，宇都宮短期大学の先生と卒業生が運営しています。一方，小山支部は発足したばかりで，この3月16日に行われた支部総会に出席していただいてお話をうかがったところです。先々は3支部のつながりをしっかりと保ち，栃木県支部を宇都宮支部と改称したうえ，「栃木県連合」を組織したいと考えております。

問：支部を運営する際に，栃木という場所柄から何か感じたことはありますか？

田渕：30数年前にこちらへやって来たころは，ずいぶん保守的な人が多いところだと感じました。そのぶん，いったん始めてしまえばやり易い，とも言えますが。

厚地：これは栃木地区に限ったことではないかも知れませんが，コンクールの場合，最初に出す時のレベルが不安になって出てゆけない人がいることは事実です。コンクールに初めて出場する時には，かなりの勇気が要るのではないですか？　ですから初めは検定でその後徐々に挑戦したら，といったアドバイスはしています。いずれにしても，会員の裾をもっと広げたい，というのが一番の願いです。

心の輪を広げる

問：最近の栃木での音楽的な動きをお聞かせ下さい。

田渕：新幹線が開通したこともあり，東京が近くなったので，いろいろな演奏家がやって来ます。きたる6月22日には，ルドルフ・ケレル先生がいらして公開レッスンを行います。本部からこうした場を提供していただくのは，何よりのこととありがたく感じています。また，音楽の専門大学があることで，学校を舞台に地域との交流がスムーズにゆくという利点もあります。ピアノ以外の先生とじかに話をする機会も多いですし，地元の楽器店も

田渕先生の優れたアイデアを実行するのみ

栃木県支部事務局長
厚地和之先生

感動創造業。
KAWAI

芸術の温もりを聴く。

New KG Series

KG-Nシリーズの特長

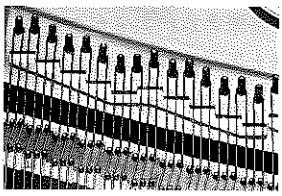
■音色がひときわ豊かになるアリコート方式
普通は振動しない弦の一部に特殊な弦枕を敷くことによって共鳴させ、中高音部の倍音構成が豊かになるアリコート方式を採用し、響きに深みと幅の広さを生みだしています。

■マフラー装置を標準装備
ハンマーと弦の間に薄いフェルトを介在させて打弦することにより音量を下げてピアノを弾くことができます。

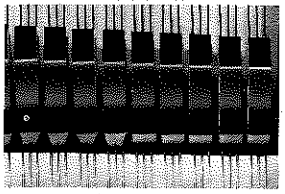
■ファインアイボリー(人工象牙)白鍵の採用

■傷がつきにくいハードフィニッシュ仕上げの譜面台

■手を離してもゆっくり閉じるセイフティ機構付鍵盤蓋



アリコート方式



マフラー装置

KG-3N

標準価格(税抜)1,226,000円
(本体価格1,200,000円・付属品価格26,000円)
88鍵/7¼オクターブ/3本ペダル(ソステヌート付)
黒塗艶出し塗装仕上げ
高さ102cm/間口152cm/奥行186cm/重量316kg

KG-2N

標準価格(税抜)1,126,000円
(本体価格1,100,000円・付属品価格26,000円)
高さ102cm/間口152cm/奥行178cm/重量295kg

KG-1N

標準価格(税抜)1,026,000円
(本体価格1,000,000円・付属品価格26,000円)
高さ102cm/間口150cm/奥行164cm/重量273kg

㈱株式会社河合楽器製作所
〒430 静岡県浜松市寺島町200 TEL(053)596-2111

大変協力的です。

厚地：ちなみに，コンペティションの賞は，地元の楽器店すべてが参加するかたちで行っています。

問：実際に学生をお教えになっていて，何かお感じになることはありますか？

厚地：最近の学生は無関心とか言われていますが，こちらの誠意に応じてついてくるものなのです。もちろん，こちらでちょっとでもスキを見せると，すぐに入り込まれてしまいますが，結局，指導者の存在感次第，ということではないでしょうか。田渕先生の授業がその良い例です。先生の講義には生徒全員が聞き入っています。

問：電子楽器の普及については，どのようにお感じですか？

田渕：私の大学にもエレクトーン科がありますが，まだ先のことは読めない，というのが正直な気持ちです。感性というものをじかに伝える楽器としてはこれからもずっと生の楽器があり続けると思います。それはすなわち，「芸術家のための楽器」とでも言いますか。

問：「感性」とはつまり「心」のことではないかと思うのですが，では「心」を学ばせるためには，どうすればよいのでしょうか？

田渕：「自分を言う」――つまり自分の存在を示せる人間になる，ということではないでしょうか。存在を示す前に言葉で解説したり技術で証明しようとすると，かえって自分の存在は証明出来ないものではないでしょうか？ ――これは難しいことではありますが。

厚地：コンペティションに限らず，支部の運営の多くの部分は先生方のボランティアで成り立っていますから，上に立つ田渕先生の心遣いの大きさをつくづく感じます。つねづね「輪が小さくなってはいけない」とみんなに言っていますが，これがすなわち，田渕先生が「心」を大事になさっている証しだと思うのです。

田渕：この先，地元の各支部にご協力いただき，音楽の愛好者が一本の柱のもとで，栃木のＰＴＮＡ会員をまんべんなく支えていけるような組織体を作ってゆけたら，と願っております。

・・・・・・どうもありがとうございました。

インタビュー後記

全国の会員の皆様，こんにちは。私はこの４月１日に東京本部へ入局いたしました堀明久と申します。旅行が好きなので，いずれは日本各地の会員の皆様のもとへご挨拶におうかがいしたいと願っておりました矢先に，４月５日に宇都宮で行われました「第10回ピティナが育てたヤングピアニストの会」のプログラムを拝見し，栃木で14年の間ＰＴＮＡを支えてきて下さった先生がいらっしゃることを知った私は，新人研修そっちのけで巣鴨の本部を飛び出しました。「わがまち・わが支部」に代わってお届けした「支部インタビュー」，いかがでしたでしょうか。今後も定期的に各地の支部を訪問させていただきたく思っておりますので，どうぞよろしくお願い申し上げます。